



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

東京で学ぶ 京大の知 シリーズ17

近年、巨大地震、火山噴火、豪雨による水害と地盤災害など、多くの自然災害が発生し、その被害は甚大で被害地域に住む人々の今後の暮らしにも多大な影響をもたらしています。また、地域の過疎化、都市部への人口集中など、社会の変動に伴い自然災害による被害形態自体も変貌してきており、外力としての自然災害自体も、例えば温暖化により大きく変動してきていることが指摘されています。このような状況を踏まえ、最近発生した自然災害を解説するとともに、社会の変化に対応した備え、すなわち「防災」について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

【主 催】 京都大学

【講演時間】 各回18時30分～20時

参加費無料

変動する 社会と 激変する 自然災害

■ 開催場所・問い合わせ先

京都大学 東京オフィス

東京都港区港南2-15-1品川インターシティA棟27階

TEL: 03-5479-2220 FAX: 03-5479-2221

E-mail: t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp

URL: http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/



申し込み方法 お申し込みはWEBまたはFAXで

京都大学ホームページからWEBでお申し込みいただくか、申込用紙をダウンロードしFAXでお申し込み下さい。各回定員**100名**、締め切りは**2月25日(水)**です。全4回のシリーズですが、1回のみお申し込みいただくことも可能です。なお、定員を超えるお申し込みをいただいた場合は抽選とさせていただきます。



スマートフォン・携帯電話・タブレット端末から上記QRコードを読み取り、京都大学のホームページにアクセスください。

第1回
3月5日(木)
— 松四 雄騎 —
防災研究所 准教授

豪雨と斜面災害
— 雨の降り方、地質、地形から地域の減災を考える —

近年、日本各地で集中豪雨による斜面災害が頻発しています。湿润変動帯といわれる日本列島の山地における自然現象としての斜面崩壊を解説し、激化する豪雨に対応できるしなやかな地域社会のあり方について考えます。

第2回
3月12日(木)
— 矢守 克也 —
防災研究所 教授

災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち — 想定を活かすために —

危険性を指摘されても対策する気にならないこともあれば、大丈夫と説得されても無性に心配になることもあります。リスクの受けとめは一筋縄にはいきません。だからこそ、リスク・コミュニケーションが大切になります。そのための手法について具体的に紹介します。

第3回
3月19日(木)
— 鍵山 恒臣 —
理学研究科 教授

火山活動の予測
— てきて当然の火山・ハードルの高い火山 —

御嶽山の噴火の際に「水蒸気噴火は予測がむずかしい」というコメントを数多く耳にしました。では、なぜ水蒸気噴火は予測が難しいのでしょうか？ 予測の比較的簡単な噴火はあるのでしょうか？ 私と一緒に一歩踏み込んで考えてみましょう。

第4回
3月26日(木)
— 戸田 圭一 —
経営管理大学院 教授

都市水害
— 地下と車に要注意 —

都市水害について、最近の事例を振り返りながら、その特徴と厄介さについてお話しします。また、地下空間への浸水と車に関係する事故の危険性とその対応策について、私たちの一連の研究結果を紹介していきます。